

『資本論』深掘り講座（第6回） ニュース 6/4

会場：エデュカス東京・地下会議室（千代田区市ヶ谷）

広島サミットが、核保有・抑止力の肯定、世界の分断の肩入れ確認をして終わりました。大軍拡・増税をゆるさないたたかいとその理論的学習をいっそう進めましょう。

前回の学習

ワンポイント学習 ①ウクライナ戦争の世界の世論、3分割。その経済的裏付け、ロシア・中国起点の貿易の新しい流れがある。冷戦の再燃、NATO vs 「上海協力機構」(ロシア・中国・インド)の枠組みができつつある。 ②「覇権主義・強権主義の台頭」、中国外相発言。その背景に、かつての、米英の、大量破壊兵器口実のイラク侵攻、フセイン殺害、難民のヨーロッパでの差別的扱い(ウクライナ支援とは大違い)がある。 ③「権威主義 対 民主主義 で語るべきではない」(中原麻衣子)と言いつつも、対抗軸を示せない。今こそ、唯物史観で社会・歴史を見据える必要がある。「国民の内部的対立(搾取)がなくなれば、外部的対立もなくなる。」(マルクス『共産党宣言』)

利潤率の傾向的低下の法則。

・法則の冠につけてあった、「資本主義的生産の進歩のなかでの」が意味するところ、「進歩と利潤率の低下、この関係」が重要。リカードゥは、「生産力低下のなかでの」と現実に反した。(劣等地への生産拡大→生産力低下→生産物高騰→ v の増大→利潤率低下。これは、「収穫逡減の法則」として今日も見られる。)

・ v を100にそろえ、 c が増えていく5の事例で、資本の有機的構成の高度化で、利潤率が低下することを示した。 ・利潤、 v は絶対的には増大していくことを排除しない。

・利潤率低下と生産力向上(技術進歩)は、同じ資本主義的生産様式の別表現。

・低下法則の根底には「資本の蓄積法則」がある。

反対に作用する要因 ・機械制大工業の急激な発展の下、「低下は、なぜもっと大きく・急速ではないのか」と逆の困難な課題が浮上。低下は“傾向的”とし、反作用要因を究明した。

本日の学習 第3篇 「利潤率の傾向的低下の法則」 第14章、第15章

本日のスケジュール

13:00~14:00 講義Ⅰ (60分)

14:10~15:10 講義Ⅱ (60分)

15:20~16:20 講義Ⅲ (60分)

16:30~16:55 Q&A (25分)

16:55~17:00 片付け・終了

次回 7/2(日) 13:00~17:00

東京労働会館(南大塚) 地下会議室

第4篇 商業利潤論 (1)

終了後のメール提出は mitioT@outlook.jp

ご案内

○ 『DK』を読む会 6/24(土) 13:00~17:00 東京八重洲地下
八重洲倶楽部(第7会議室) 第1巻、第7篇「いわゆる本源的蓄積」

○ 第1巻講座 ガイダンス 7/30(日) 開講 9/17(日)